

現千葉県議会議員



安全1

防災と地域

岡村やすあき



暮らしやすく、安全で効率の高い、
生活基盤の整備と充実に努めます。

地域連携と自主防災組織の強化

新潟県中越地震から、国内外で大地震が相次ぎ、県北東部では地震が頻発するようになってきました。また、気象状況の変動等により、水害などの被害も多く見られるようになってきました。

県・市、市民にとっては、防災に対する対策の必要性を強く再認識させられる出来事になりました。

阪神大震災で、公的機関による救助は約四千四百人。地域の助け合いによる救助はその五〜六倍にも上がったというデータがあります。（県消防地震防災課調べ）

その状況からみても、災害時の救助体制を「自助（個人）」「共助（地域）」「公助（公的機関）」に分類した場合、特に地域における共助（助け合い）の取り組みを強化する必要があります。

昨年九月に、八都県市合同防災訓練が四街道市の四街道高校・四街道小学校等を中心に行われました。約4000名の市民が、避難・宿泊・徒歩帰宅訓練等に参加しました。四街道市と市民の協力によってこの防災訓練は、大成果をおさめました。



この防災訓練は、自治体・防災関係協力機関などとの連携により、市民に被災者の立場になっていただいて訓練を行うものでした。市と防災関係機関の連携協力体制を充実・強化し、住民や通勤・通学者など、一人ひとりの防災知識や防災能力の向上を目指して訓練を行ったものです。

この訓練に参加された多くの方々から、「災害時の苦痛や困難さが実感できた。地域における連携・助け合いの大切さがよく分かった。」という意見が述べられました。

現在、各地域には、消防団が存在していません。地域の消防団は、人材難・財政難のなかを、市民と連携を図りながら、市民の生活と安全を守るために頑張っています。

また、最近、各自治会や自治組織等においても、街ぐるみの防災・防犯計画を立てたり、独自の防災組織を立ち上げたりする状況がみられるようになってきました。

それらの組織を中心として、各地域に『共助（共に助け合う）』の精神を生かした自主防災の組織を作り、災害に強い街づくりを行うことが急務であると考えています。

私は、防災の施策として、次の二点の実現を図ります。

一、地域の連帯感と連携・助け合いの度合いを高めるために、地域の自主防災組織の組織化を進めます。

二、ライフラインや学校などの公共施設や、公的機関の耐震性や防災性を強化するように努めます。

特に、学校においては、子どもの安全確保とともに、災害時の拠点ともなるので、早期に整備することが重要であります。

安全・生活基盤整備に関する重点目標

- ・ 防災対策の強化、災害救助対策の強化などにより災害から市民を守るための施策を推進します。
- ・ 地域の安全確保のため、地元四街道市大日地区への交番設置に取り組みます。
- ・ JR総武線の快速増発、バスの利便性向上等、通勤通学対策に取り組みます。
- ・ 国道51号線の早期拡幅や県道の着実な整備で、渋滞解消と道路交通の安全性と利便性を高めます。

